

滋賀県 高島市マキノ町

琵琶マス養殖を核とした 湖畔共生モデル

～水といのちと地域の未来をつなぐ～

琵琶湖の自然と共生し、
持続可能な水産養殖・環境保全・研究・地域活性化を
一体的に進める複合プロジェクトです。

琵琶湖から
未来のいのちを育む

ビワマス養殖施設

(桃太郎システム・ビニール製丸型水槽 10槽)

研究棟

(水質・養殖技術・環境研究)

ろ過・水処理設備



桃太郎システム (ビニール製丸型水槽)



未来へつなぐ
琵琶マス

地域資源を活かし
水といのちが循環する
持続可能な地域づくりを目指します。



水産養殖

ビワマスの安定生産と
種苗育成・放流



環境保全

琵琶湖の水質保全と
生態系の再生



研究・技術開発

養殖技術・水質改善技術
地域適応研究



地域活性化

観光・体験・雇用創出
地域産業との連携



共生社会

人・動物・自然が共に生きる
持続可能な未来

本資料の目的

ビワマス養殖の事前協議時に、マキノ町計画の全体像と位置付けをご理解いただくための総合イメージ資料です。

今回ご相談したいこと

マキノ町の旧養殖施設を再生し、ビワマス等の養殖を収益事業として検討する一方、琵琶湖の水環境改善、稚魚育成・放流、水産資源再生、地元水産物振興など、まず県・水産関係機関へ計画全体をご説明し、養殖、種苗、研究、放流、環境実証等について、どの部署・機関と、どの順序で協議を進めるべきかご共有を目的とします。

計画概要

計画地	滋賀県高島市マキノ町 旧養殖施設を含む約2,100坪規模
本来目的	琵琶湖浄化・水産資源再生・地元水産業への貢献
収益部門	マス類・ビワマス等の養殖・販売
研究部門	水環境改善、水質・底質・飼育データ、稚魚育成・放流等
地域拠点	NPO、福祉就労、一般カフェ、BBQ等を別主体で連携

地域複合拠点の全体イメージ

既存資料のビジュアルを基本に、マキノ町で目指す「地域に開かれた拠点」の雰囲気を示しています。



このイメージでお伝えしたいこと

水産養殖と研究だけの閉鎖的施設ではなく、琵琶湖の環境、水産資源、地域産業、福祉・交流を来場者が知り、体験できる地域拠点を目指します。
なお、写真内の施設配置は完成図ではなく、各行政・関係機関との協議を踏まえて最終設計します。

水産・研究部門が本計画の中心です

マキノ町モデルでは、収益養殖と琵琶湖の水環境・水産資源再生を分けて管理しながら相互に連携します。

収益養殖部門

本養殖槽10槽
補助槽2槽
計12槽
標準出荷目安 7.5t/年（満稼働時）
販売・BBQ等への供給

研究・公益部門

コンテナ型研究棟1棟
琵琶湖水環境改善実証
稚魚育成・放流の検討
水質・底質・魚体データの蓄積

ビワマス養殖で確認・協議したい事項

種苗

養殖用種苗の供給条件、供給主体、供給量、手続

飼育条件

水温・水量・DO、飼育密度、疾病対策、選別・隔離

排水・防疫

排水管理、逸出防止、防疫・衛生上の必要条件

ブランド

養殖ビワマスと天然・漁獲ビワマスの棲み分け、名称・品質基準

域外試験

必要に応じ、常総市等で設備適合試験を行う場合の条件

琵琶湖浄化・水産資源再生の考え方

養殖収益だけを目的とせず、地域水産業へ還元する研究・環境部門を計画の中核に置きます。

段階的な水環境実証

1

上流側を基準区として水質・飼育環境を把握

2

T.Sミネターゼによる水環境改善の評価

3

エアリフォーマーによる曝気・水質改善の評価

4

ナノテラによる水質・底質・微生物環境の評価

5

魚体・成長・安全性・水質データを継続記録し、関係機関と共有

地域水産業への還元

アユ・ビワマス等の資源回復、稚魚育成・放流、養殖技術の蓄積は、地元漁業者・漁協・滋賀県・水産関係機関との協議を前提に進めます。事業収支を先に固定せず、地域として何を残すべきかを共同で整理します。

複数主体で進める相互事業モデル

各事業は別法人・別会計としながら、契約・商品・技術・来場者を通じて相互に連携します。

株式会社バイオリモテックス

土地・事業開発
研究棟・琵琶湖浄化
一般カフェ・水産体験型BBQ
各主体への事業支援

NPO法人

保護犬20頭
NPOドッグカフェ
菌床しいたけ
障害者就労支援

生産法人（設立予定）

マキノでは水産養殖
地域側55%
バイオ25%
LLP側20%

地元・行政・研究機関

地元漁業者・漁協
滋賀県・高島市
水産関係機関
大学・研究機関等

「総合」の意味

本計画は一社の連結事業ではありません。各主体が独立した責任と会計を保ち、それぞれの専門性を生かしながら一つの地域事業圏を形成します。NPO単独の保護犬・福祉相談、一般カフェ・BBQ等の飲食営業相談は、総合計画とは分けて別書面で個別に協議します。

水産を中心に、地域に開かれた機能を配置

周辺事業は水産・環境事業を支え、来場者が地域の課題と取り組みを知るための役割を担います。



わんステ・交流区画の参考イメージ（既存ビジュアル）

わんステ・福祉

保護犬20頭
菌床しいたけ
障害者就労支援
NPOドッグカフェ
詳細は別相談書

一般カフェ・BBQ

一般カフェは地域の日常利用
BBQは養殖魚・しいたけ・地域食材
主体：バイオリモテックス
詳細は別相談書

モリンガ展示

小規模な展示・啓発栽培
収益農業には位置付けない
来場者への環境・農業情報発信

位置付け

マキノ町の中心はあくまで琵琶湖浄化・水産資源再生・水産養殖です。周辺機能は、その目的を来場者に伝え、地域内で収益・雇用・福祉を循環させ

事前協議でご指導いただきたい事項

この資料を入口として、今後の正式協議先・必要手続・資料の作り方をご教示いただきたいと考えています。

1

ビワマス養殖

養殖実施に必要な県内の担当部署・関係機関、事前協議の順序

2

種苗

養殖用ビワマス種苗の供給条件、相談先、数量・時期等

3

研究・水環境

研究棟、水環境改善実証、水質・底質評価等の相談先

4

稚魚・放流

資源再生、稚魚育成・放流を行う場合の関係者・許認可・協議

5

地元連携

漁協・漁業者とのブランド・販路・出荷時期等の調整方法

6

補助制度

養殖設備、試験研究施設、資源再生等に利用可能な県・国・市制度

7

今後の窓口

県庁・出生機関・京島市・水産関係機関の担当窓口のご案内

今後の進め方

本総合イメージで方向性をご説明した後、ビワマス養殖、水環境研究、NPO・わんステ、飲食営業等について、担当窓口ごとに個別相談書を作成し、順次